

「大自然を体で感じた」日

MELON創立10周年記念イベント&フォーラム「山・里・海・空・子ども」開催

9月6日（土）エルパーク仙台（141ビル5F）において MELON 創立 10 周年記念イベント&フォーラム「山・里・海・空・子ども」を開催しました。この催しは MELON 創立 10 周年を記念して、参加型のワークショップ的なイベントを中心に、参加者を楽しみながら環境問題について考えてもらおうと企画したものです。午前中は各テーマに分かれ、それぞれのフィールドでの参加型イベント、午後はエルパーク仙台セミナーホールに集合してフォーラムを行ないました。



テーマごとの詳細は 2 面の報告記事に譲りますが、ここでは概要だけ報告します。

「山」は深野稔生氏（MELON 理事）の案内により仙台市中心部から 30 分の大自然、蕃山を散策しました。「里」

は三浦隆弘氏（MELON 評議員）、NPO 法人まちづくり政策フォーラムさんの協力のもと、太白区坪沼周辺の民家などを訪れました。「海」は木村美智子氏（MELON 評議員）の案内により七北田川の上流か

ら太平洋に注ぐまでを、何か所かポイントを決めて観察などを行ないました。「空」は大学生による環境サークル RNECS（ルネックス）の企画により、映像や紙飛行機づくりなどを通して空の美しさ、すばらしさを体感しました。

「子ども」は、仙台の街の自然や施設を活かし子どもたちと楽しむ活動を行なっている NPO ゆいもりネットの企画により、勾当台公園を探検して身近な自然を発見し、旗に描いて表現しました。

当日は、朝のうち雨が少し降っていましたがやがて好天に恵まれ、どのフィールドも盛況の内にイベントを終えることができました。午後のフォーラムでも各テーマから楽しそうな報告がなされ、参加者の満足そうな笑顔がとても喜ばしく印象的でした。

今回は講演ではなく参加型のイベントで、一度に 5 箇所に分かれて行なうという初めての試みであり、事務局側は不安もありましたが、テーマごとのご協力者のご尽力により滞りなく進めることができました。ご協力いただいた皆さん本当にありがとうございました！



<Index>

- P1. 10 周年記念企画のご報告
- P2-3. 10 周年記念企画のご報告
- P4.3. CLUB-FOREST
かんきょう読み聞かせ
- P5. 七ヶ宿町長より特別寄稿

- P6. 学習会『省エネ博士になるぞ♪』
ストップ温暖化センターみやぎ「通信」
- P7. 環境市民講座「環境と長生き」
北六番町小学校でのみそづくり
- P8. 仙台スタジアムごみ減量大作戦
新入会員紹介
編集後記
会員状況



山 “山”を感じてみよう！ワークショップin蕃山

テーマ「山」は、青葉山トンネルを西側に抜けたところに位置する手つかずの大自然、「蕃山」を散策して、自然の良さを楽しんでもらうとともに身近な里山のあり方について考えました。朝はあいにくの雨で雨具を用意しての出発となりましたが、みるみる晴れ間が顔をのぞかせ、展望台からは仙台の街が一望できました。

MELON 理事で山岳ガイドでもある深野稔生氏の説明を聞きながらの楽しい散策でしたが、随所に考えさせられる点もありました。例えば、目印に木の枝にまいてあるビニールテープは鳥の足にからまるととれなくなることで、また熊出没注意の看板は、熊

が悪者のように表現されているが熊の住む領域に入り込んでるのは人間のほうではないのか、などです。考え方は様々だと思いますが、自然を楽しむからには自然に対して最低限の敬意は払いたいものだと思います。



里 里の魅力・再発見！坪沼に行ってみよう



「里」の企画ではNPO法人まちづくり政策フォーラムの協力を得て、仙台市太白区の坪沼地区に26名の参加者とともに出かけました。昔ながらの民家、NPOの運営によるプチファームという「市民農園」、地域の歴史を感じられる八幡神社、里の自然と人に触れてきました。

午後には現地で撮った写真を使い、坪沼地区の魅力を紹介するマップを参加者全員で作成し、「おいしそうなくらし、人と自然、身近にある桃源郷」というメッセージを作りました。

参加者の方の一人は「仙台市街地から嫁がれたお嫁さんが、地域の文化を守るのに貢献しているのが印象的だった」という感想を話されていました。

海 七北田川から太平洋にのぞむ！

「海」の企画では、七北田川上流から七北田川沿いに川を下り、蒲生干潟に行ってきました。東北文化学園大学講師の木村美智子先生(MELON 評議員)とMELON 理事の堤恵美子さんに協力をいただき、バスの中ではお二人から七北田川や地名に関する由来、川についてなどのお話を聞きました。

出発時に降っていた雨は七北田ダム湖畔公園に着く頃には晴れ、元気に鳴く蝉の音が聞こえました。次に、私たちの飲み水となる水を取水するところを見てほしい、と福岡浄水場付近の取水口に立ち寄りました。取水口を初めて見る方も多く、子どもも大人も熱心に観察していました。

帰りのバスの中で感想をお聞きすると、一つの川を上流から河口まで下る中で様々なことを感じ、考えていただけたようで、次のような感想もいただき

ました。「蒲生干潟では多くの釣り人達が見られ、私達の癒しの空間となっていました。その素晴らしい場所を壊さないためにも、私達一人一人が日頃の生活にも気を配りながら、将来の子ども達に残していきたい」。





空を見上げたくなる時間



「空」は東北大学の大学生を中心とした環境サークル RNECS (ルネックス) のメンバー6名が企画・運営を一手に引き受け、ご参加いただいた49名のみなさまにたっぷりと空の魅力をお届けしました。講演内容は①空色②虹③夜空④紙飛行機⑤環境問題についてそれぞれ解説しました。ワークショップでは虹ビーズというプラスチックの小さな粒でスクリーンを作り、そこに電球で光を当て虹を作ったり、暗闇で光る夜光ペンを利用してオリジナル星座の作成をしたり、よく飛ぶ紙飛行機を作って飛ばしてみたりと、とてもにぎやかな歓声があちらこちらで上がっていました。

室内でのワークショップでしたが、たっぷり空の魅力を再認識していただけたようでした。

参加者のみなさんからは、「何十年ぶりかで飛行機を作って昔を思い出しました」などのご感想をいただきみなさん楽しいひとときを過ごしていただきました。

きっと、家路に着く時は空を見上げて帰られたことでしょう。当日はオレンジ色の雲が水色の空に浮かんでいて、とてもきれいな夕暮れでしたね。



目からウロコの匂当公園～kids編～



「子ども」は「見ようとしないと見つけられない」と「見る目」を養うために、講師の関口怜子さんと「ぞうかば」のイヤリングや髪型を覚えているかななどのクイズをしました。子ども達は「次は何？」と興味津々。「見る目」をしっかり養ってから筆記用具を持って公園にでかけました。

公園では、鳩を追っかけたり、木登りをしたり。花に集中する子、地面ばかり見て回る子、上ばかり見て回る子、様々でした。部屋に戻って自分が見つけたものをモチーフにしての旗づくり。1枚1枚、子ども達のメッセージがこもったステキな旗ができました。子ども達は参加者に拍手をもらいながら、立派に発表しました。

公園での時間は少なかったけれど、次に公園に行ったときに、ふと「こんなこと言ってたね」「旗には

何を書いたっけ」と思い出してもらえたらステキ。「見る目」を持たないと見えてこないことを思い出してもらえたらいいなと思いました。

(ゆいもりネット枝松芳江)



メッセージ&アピール

午後のフォーラムでは、オープニングとして「子ども」からの報告が行われました。作成した旗を一人ずつ広げて壇上で披露。会場からは大きな拍手が送られました。「山」「里」「海」「空」からは、写真やコメントを貼り付けた大きな地図を広げ、あるいはスクリーンに映写するなど、それぞれ工夫をこらした報告がされました。



♪フォーラムでは各テーマからメッセージが、
MELON からアピールが発表されました♪

みやぎの〇〇からのメッセージ

- 山 『これからも今の素晴らしい自然のままでいてください!』
- 里 『おいしそうなくらし、人と自然、身近にある桃源郷』
- 海 『水をムダ遣いしないように大切に使います』『きれいで親しみやすいにします』
- 空 『まぶしいほど青い空の真下で The sky linked that sky!』
- 子ども 『みどりと水があってよかった!』『ハトがいて楽しかった!』

MELON 創立 10 周年イベント&フォーラム アピール

山、里、海、空、子ども、みんなみやぎの宝です!

MELON は今日の小さな感動を、未来の子ども達へ様々な活動を通じて伝えていきます。



報告 CLUB-FOREST

若い力で活性化！

毎月1回テーマを決めて、環境に関心のある人々が集う場を提供している CLUB-FOREST ですが、今年度から東北大学の大学生を中心とする環境サークル RNECS (ルネックス) の企画により開催しています。今までの参加人数は平均18名(昨年度平均約10名)で新しい参加者も増え、活発な意見交換がなされています！

テーマ及び参加人数は以下のとおり



第1期(4~6月)

自然エネルギーってなんだろう？

- 4月18日(金)「風のチカラ」(参加人数18名)
- 5月16日(金)「バイオ(生物)のチカラ」(参加人数15名)
- 6月20日(金)「太陽のチカラ」(参加人数28名)



第2期(7月~9月)

スマートライフを送ろう！

- 7月18日(金)「グリーンのお買い物」(参加人数20名)
- 8月29日(金)「ゴミのゆくえ~ワケルくん人気と共に探る~」(参加人数11名)
- 9月12日(金)「門田陽子さんの忍法“省エネ”術！」

第3期のテーマは今のところ未定ですが、事前申込みは不要ですのでホームページ等をチェックの上、ぜひご参加ください！



昭和9年、アメリカ大リーグの大打者ベーブ・ルースが八木山球場でホームランを打った年です。この年も異常気象で、東北は凶作に見舞われていました。当時の新聞を読むと、軍部の力によって満州国がつくられ、「大きな日本」になっていくのと同じ時に、東北地方からは農村から子どもが「売られて」いったようすがはっきりと読み取れます。悲しいことでした。

平成15年の今年、松井選手はヤンキーススタジアムでホームランをうちました。アメリカがイラクに侵攻しました。今年も、米は不作です。人間の営みによる地球温暖化が地球というシステムのバランスをくずして、いま世界中でおきている異常気象をもたらしているかもしれないという不安がどうしてもぬぐいきれません。子どもたちに悲しい現実をもたらさないようにと、今年も秋、私たちのところにはおだやかでない思いが行き来します。

冬が来る前に、加藤幸子 作「森は童話館」(桐原書店)を読んでみましょう。これは声に出して自分に読み聞かせます。宮城県にも里山がまだたくさんあり

長い夜 自分のために読んでみる

ますが、里山は、人と自然とが直接的に顔を合わせる場所です。そしてそこは、生きものの一部としての人間を感じる場所でもあり、生き物からはなれ、ほかの生き物を支配するものとしての人間の顔がみえかくれる場所でもあります。あなたは、里山のなかで何を感じるでしょうか。作者の、とぎすまされた感性から長野県のある森の中で観察された、森の中の生命(いのち)の営みを、音として耳からも感じてみましょう。



第3のクンレン

- (1) まず、この本を夜の風音などを注意しながら読みます。
- (2) つぎに、音楽を流しながら読みます。この本の中に登場してくる作曲家、エリック・サティの曲でも流しましょう。ここではとりあえずジムノペディIをかけます。ピアノの音符を一つ一つ聞き分けるように、本と音楽の間を行ったり来たりして見ます。
- (3) この本にふさわしい音(音楽に限ったことではありません)を見つけてきましょう。

特別寄稿

七ヶ宿町では、昨年から新エネルギービジョンの策定や風力発電の検討などに取り組んでいることから、MELON 風力発電推進プロジェクトでも、何度か七ヶ宿町を訪問してお話を聞かせていただいております。お話からは、水、森、地球温暖化防止など様々な観点から見ても非常に先進的な取り組みがうかがえました。今回は、町長の高橋國雄さんに七ヶ宿町での取り組みについて寄稿していただきました。



水源の森を守ろう

宮城県七ヶ宿町長 高橋國雄

七ヶ宿町は、宮城県の最西南端に位置して、東北地方でも有数の山岳公園「蔵王国定公園」の一部を擁しており、西は山形県、南は福島県に接する、山地が90%以上という自然に恵まれた町です。

県都仙台市から車で60分、東北新幹線白石蔵王駅から30分の位置にあります。

本町に源流を持つ一級河川阿武隈川水系の白石川に、東北地方でも最大級の「七ヶ宿ダム」が建設され、平成3年に完成しました。

このため七ヶ宿町にとっては、好むと好まざるとに拘らず水源を守るという大きな使命があると言えます。私は、この使命を積極的に担っていこうと考えています。町民が、水資源を守るという崇高な使命を誇りとし、田畑を耕し森林を整備して水質日本一を目指すことは、極めて大きな意義を持つと思うからです。

わが国の国土総面積は、およそ37万8千平方キロメートルで、その内の67% 25万平方キロメートルが山林という森林大国であります。この森林は、私たちの生活に欠くことのできない各種の用材を供給するほかに、水源涵養^{かんよう}、大気浄化などの重要な役割を担い、私たちの生活を守っています。

このように大きな役割を担う森林であります。森林を守り育ててきた多くの山村では、人口が減少し、高齢化が進行して森林整備が行き届かないのが現実で、森林は荒廃の一途をたどっています。

このため七ヶ宿町では、昨年11月、全国の自治体として初めて、水源の森に間伐材で焼いた炭を置く事業「水守人ミーティング in 七ヶ宿」を実施し、森林の果たす役割について全国民の理解を得るための第一歩を踏み出しました。

この事業は、間伐材を焼いた炭を森に置くという小さな行為かもしれませんが、森を育てて国民を災害から守り、水源を涵養し、水質を保全し、そして二酸化炭素を吸収して病み始めている地球を守るという、極めて大きな意義を持つ催しであると確信しています。

この催しは毎年継続して11月の第一日曜日に実施することにしており、今年は11月2日に実施いたします。多くの方々が参加されるようお願いしております。

人口2千人余りという小さな自治体が踏み出した第一歩が、より多くの山村に波及し、森林の役割、森林の大切さを全国民に理解していただけたら望外の喜びであります。

※涵養(かんよう)／自然にしみこむように養成すること。



2002.10.20 町民祭りでの自然エネルギーの展示



2002.11.23 昨年の炭置きイベント



七ヶ宿ダム



柏木山牧場風景

省エネ博士になるぞ♪



2003年7月23日(火)・8月19日(火)の両日、せんだいメディアテークを会場に小学4年生～中学3年生を対象に省エネルギーの学習会『省エネ博士になるぞ♪』を開催しました。のべ32名の参加がありました。

夏休みの自由研究のテーマとして家庭で省エネに取り組んでもらうため、東北芸術工科大学の三浦秀一先生(ストップ温暖化センターみやぎ運営委員)を講師にお招きし、「どうして省エネが必要なのか?」「どうやったら省エネできるのか」をわかりやすく、楽しくお話していただきました。

家庭で調べてもらったのは、家の電気製品の数、待機電力の大物ベスト10探し、毎日の電気・ガスのメーターチェックなど。これらを通して、自分の家の毎日のエネルギー利用の実態調査をしてもらいました。

調査には家族と取り組んだ参加者が多く、ご家族の方からは「子どもと一緒に私も勉強できました」「息子が変わった!!」と連絡をいただきました。調査を通して家庭の中でちょっとした発見や変化が

あったようです。

参加した子ども達は、省エネの必要性とそのおもしろさを知り「これからも省エネに取り組みたい」「もっといろいろな友達と省エネについて考えてみたいと思った」と感想を寄せてくれました。子ども達は三浦先生のお話の中で「コンセントの穴は地球につながっている」「地球は私たち人間が変えられる」「省エネは今回だけでなく一生続けてください」というメッセージが心に強く残った様子で、とても熱心に省エネに取り組んでくれました。



ストップ温暖化センターみやぎ「通信」15

「私の考えるみやぎの地球温暖化対策 ご意見・アイデア大募集」

へのご意見ありがとうございました。

さまざまな意見をいただいた中から、紙面の都合上幾つかを要約してご紹介いたします。

- ・(飲み物の)自動販売機の削減について検討すべき。
- ・健康・ダイエットの面から自転車通勤を推進するキャンペーンを行う。
- ・県内の小中学校に太陽光発電装置や雨水を利用できるシステムを設置する。
- ・冬季の水道管凍結防止の電熱線が電気をたくさん消費するので温度センサーで制御する装置を取り付ける。
- ・デパートなどで買い物をしたとき、「無料駐車券」は発行してもらえるのだから、公共駐輪場の駐輪券を発行してもらえないのだろうか。

詳しくはMELONのHPに掲載されていますのでご覧ください。今後も意見募集は継続して行います。ご意見・アイデアがありましたら事務局・南までお寄せください。

<http://www.melon.or.jp/melon/>

地球温暖化防止活動推進員の研修を行います。

今年度の秋から宮城県で30名の地球温暖化防止活動推進員が新たに設置されました。センターでは、10月25日から2月7日まで合計7回程度、「地球温暖化防止活動推進員の研修」を行います。これまでのMELONの活動やMELONに関わっていただいている方のネットワークを活かし、特にワットアワーメーターなどを用いた家庭の省エネサポートを各地域でできるようにしたいと考えています。この研修に関するお問い合わせは事務局・南まで。

※地球温暖化防止活動推進員/地球温暖化の現状や対策に関する正しい知識を広め、地域における温暖化防止活動を推進する。(詳しくは宮城県環境政策課のホームページをご覧ください。<http://www.pref.miyagi.jp/kankyo-s/>)

※ワットアワーメーター/コンセントの差し口と電気製品のコンセントの間で通電させるだけで、その電気製品がどれだけ電気を消費しているか電流・CO2換算量、使用金額を計る機器。MELONで無料で貸し出しております。詳しくは事務局までお問い合わせください。

(022-276-5118 担当:星)

報告 セミナー企画プロジェクト 参加120人 食と環境を考える

9月8日(月)みやぎ生協古川南店にて、講師に木村修一理事長をお迎えし、「長生きと環境」と題して、第3回 MELON 環境市民講座を開催しました。

これまで理事長が研究されてきた成果をスライドでグラフを交えてわかりやすくご説明いただきました。例えば、日本人の食生活が欧米化しているとよく言われているが、実は日本は日本以外のアジアの国々と欧米のちょうど中間にあるということ。最近



国々と欧米のちょうど中間にあるということ。最近昔の食生活が異常にもてはやされているが実はそれは間違いであること。現代の人がお酒が強くなったのは、タンパク質を多くとるようになったからだ。

食塩とタンパク質の関係についてなどなど。

興味を引く内容が盛りだくさんで、みなさん感心しながらメモをとっていらっしゃいました。参加者からは「とても楽しく、ためになるお話でした」「ぜひ今回の話の続きが聞きたい」「大変わかりやすく、食と環境を考えさせられる講演でした。ありがとうございました」などの感想が寄せられました。参加者は120名を超え、皆さんの関心の高さがうかがえました。



MELON会員からの寄稿

海藤節生さんからの寄稿*「みんなで学校に行きましょう」

今回は、音の先生をさせていただきました。

夏休みが開けてすぐの、8月27日、28日、29日と仙台市内にある小学校の総合的な学習の時間のお手伝いに行ってきました。縁があって「建築と子ども達ネットワーク」の方の依頼で今年の7月、北六番丁小学校で音づくりワークショップを担当したのがきっかけでした。

北六小の4年生は今年オリジナル味噌を自分達で作っています。その味噌がもっともっと美味しくなるようにするにはどうしたらいいか?そこで、「みんなの気持ちを音で表現してお味噌さんに聞かせよう」ということになり、1組と2組のみんなが4人ずつのグループに分かれ思い思いの音を使い、あるグループは体全体を使ってお味噌に願いを込めました。

最初は大変戸惑っていた子ども達ですが、すぐに持ち前の子どもらしい遊びの感覚(楽しく学ぶ)で個性の溢れるアイデアがどんどん出てきました。

(MELON も音の出る情報紙が欲しくなってきますね。)子ども達はあるきっかけでどこにいつてしまうかわからないくらいの想像力を発揮します。

「何か一つでもいいから、ひとりひとりにプレゼントが出来れば…何かを感じるきっかけを作ってやれば…」

そんな思いを胸に今回は、酒井知子先生やNPOの方々や立町小学校、沖野小学校、そして北六番丁小学校に行ってきました。僕には今回も限られた時間でしたが、学校の先生がたにとっては毎日の事。本当に日々お疲れ様です。保護者の方々も、是非時間を作って学校に行ってみてください。子ども達や先生方と一緒に、みんなで作っていきましょう。

↓沖野小学校
「音楽を聞いて絵を書いてみる」



↑立町小学校
「町で聞いた音を再現して音の回廊を作ろう」

北六番丁小学校→
「梅田川上流を言葉と音で表現しよう」



仙台スタジアムごみ減量大作戦プロジェクト☆報告②



今年、MELONは、仙台スタジアムで行われるベガルタ仙台のホームゲームで排出されるごみの減量に挑戦しています。3月15日から現在まで、ベガルタ仙台およびベガルタ仙台・ボランティア・ネットワーク（略称VVN）と協力しながら、12試合で調査活動を行っています。

今まで、ごみの分別を徹底させたり、ごみの圧縮を呼びかけたりした活動の結果、ごみ袋の排出数は観客1000人あたりに換算して31.7袋から22.6袋と、約3割削減されています。



現在6種類発売中☆

「サッカー観戦時は自分のコップで飲物を買う」ということが、仙台スタジアムのスタンダードになりつつあります。

そして、9月6日（土）から観客の皆さんにも「ごみ減量」を呼びかけるため、ベガルタチアリーダーズが、試合前、ハーフタイム、試合終了後に横断幕を持ってピッチを周回する取り組みが始まりました。

仙台市環境社会実験としても注目されるこの大作戦。一歩ずつではありますが、スタジアムに関わる人たちが一つになって「ごみ減量」に向かう体制作りができつつあります。

また、毎試合6,000個以上使い捨てにされていたコップごみ削減のため“チームグッズ”として発売されたオリジナルタンブラーは発売個数が10,000個を突破しました！



このプロジェクトの活動状況はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.melon.or.jp/melon/Jversion/Section/stadium/top.htm>



新会員のご紹介

※敬称略

伊藤道子（仙台市）、川原業三（仙台市）
小野寺由美（中田町）、中澤伸一（仙台市）
富樫千之（仙台市）、



2003.7.1～8.30

会員状況

合計	1,038
法人	121
任意団体	20
個人	897
(2003年8月25日現在)	



植えた葡萄が3年目にして実をつけました☆おひさまが顔を出し、甘くなりました。

《奥山》

編集後記

今年は結局夏が来ないまま、秋を迎えようとしています。暑さには弱いのですが、夏は大好きなのでちょっとかなしいです。暑さの中でウダウダするのが夏休みっぽくていいんだけど…。《小林》

寒い夏。米不作。大接近火星をまだ見られない。元気一杯のスタッフ達。その中で気力では負けじと務めています。《山本》

履けなくなったズボンでクマのぬいぐるみを制作。上手ではないのですが、意外に人気です。次は服の購入時についてきた、予備のボタンと生地を寄せ集めて10cmベアに挑戦します。《鈴木》

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 Tel022-276-5118 Fax022-276-5160

★情報センター Tel022-301-9146 Fax022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ Tel022-301-9145 Fax022-219-5710

ホームページ <http://www.melon.or.jp/melon/> E-mail melon@cir.tohoku.ac.jp

※MELON 情報紙は古紙100%の再生紙を使用しています。